



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年8月27日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



「生」と「死」を見つめて ノンフィクション作家 佐々涼子さん

27日(日) = 1、3面



ノンフィクション作家の佐々涼子さん＝写真＝は、海外で亡くなった人の遺体や遺骨を遺族のもとに届ける仕事に密着した「エンジェルフライト 国際霊柩送還士」、終末期がん患者や家族らに取材をした「エンド・オブ・ライフ」など「死」をテーマにした著作を発表してきました。最近では「子どもホスピス」の取材を進めていました。

「生」と「死」を見つめてきた佐々さんは今、闘病生活を送っています。悪性の脳腫瘍と診断され、開頭手術などを受けたのです。入院中は体を動かすこともできなかった日々もありました。

具合が悪かったり、検査結果が悪くなかったりした時は「長く生かしてください」と頼み事をしていたと明かしました。しかし、日

常の世界の美しさに気が付いたことで「今日を大切に生きよう」と考えるようになったと語ります。体調が安定している時にいった池上彰さんとの対談では、自らの病で体験していることを伝えたいという意欲を示しました。「タイムリミットがあるので、何としても書きたい」。そう語る佐々さんの心境に迫ります。

論点 社会保障としての住宅

30日(水) = オピニオン面



高齢者や、中高年の単身女性の住宅問題が深刻化しています。孤独死のリスクや身元引受人の問題があるため、貸主が入居を拒むケースも多いといわれています。実際、国の調査でも貸主の約7割が

「高齢者の入居に拒否感がある」と答えています。新型コロナウイルスの感染が拡大した時期には、住まいを失う人も相次ぎました。社会保障の根本と言ってもよい住宅政策について考えます。



「ウクライナ・ウォー・ストーリーズ」をプレーするアレクサンドル・アンドロシユクさん＝キーウで



新連載「戦争とゲーム」

29日(火) = 1、3面

ゲームは映画やテレビと同じく、もはやメディアの一つだ。ロシアの侵攻が続くウクライナで、この戦争を題材にしたゲームが次々と開発されている。少年として戦火の街を生き残り、兵士を操作して敵のロシア兵を倒した

り。戦時下で開発されているこれらのゲームは、実に基づくドキュメンタリーの要素が含まれ、「戦争の実態を知ってもらいたい」という強い思いが込められています。最新の潮流をウクライナで取材しました。

特集 ワイド 経済学者が説くマイナ敗戦 28日(月) = 夕刊2面

マイナンバーカードの誤登録問題への批判が続いています。政府はヒューマンエラーを強調しますが、経済学者の金子勝さん＝写真＝は問題の本質に異を唱えます。新型コロナウイルスで国産ワクチンや治療薬の開発が海

外メーカーに後れを取ったように、日本企業の技術力の問題ではないかと指摘しています。「マイナ敗戦」といえる状況を招いた国内産業の衰退には、どのような背景があるのでしょうか。



竹橋の窓から

編集後記

毎日新聞社は28日午後6時半から、TBSラジオ「荻上チキ・Session」とイベント「性暴力を問ういま、社会は何をすべきか」を開催します。元ジャーナリストのJrの中村一也さんや映像ジャーナリストの伊藤詩織さんが体験を語り、報道のあり方を含め、私たちがどうすべきかを議論する企画です。一緒に考えてみませんか。詳しくはQRから。(石原聖)

